

令和7年度 高知県立盲学校 第2回学校運営協議会記録

【委員】※参加者は数字に○印 全委員出席

番号	氏名	所属等	区分
①	原田 浩平	小高坂各種団体連携協議会	地域住民
②	川田 裕一	越前町1丁目北町内会	地域住民
③	石川リエコ	高知県立盲学校PTA会長	保護者
④	高田 麻美	高知県立盲学校PTA副会長	保護者
⑤	上村 雅志	社会福祉法人 小高坂更生センター理事長	学校の運営に 資する者
⑥	中川 理沙	高知県身体障害者連合会 視覚障害者生活訓練指導員	学校の運営に 資する者
⑦	泉 奈江	オーテピア高知 声と点字の図書館館長	学校の運営に 資する者
⑧	伊藤 正孝	元高知県立盲学校長	学識経験を 有する者
⑨	中野 直喜	高知県立盲学校長	学校関係者

令和7年度 第2回学校運営協議会

1 日 時 令和8年2月25日(水) 9:30~11:00

※9:30~10:00 校内授業見学

2 場 所 盲学校校長室

3 委員紹介

4 議 事 (1) 令和7年度学校関係者評価について

- ・学校評価アンケートの報告
- ・令和7年度の実施の報告
- ・学校関係者評価

(2) 令和8年度学校経営計画について

- ・令和8年度の実施の説明

(3) その他

6 議事概要

(1) 令和7年度学校関係者評価について

学校長及び教頭が資料(学校評価アンケート、学校経営計画)に基づき、令和7年度の校内の取り組みや活動について説明、報告
「意見交換及び学校関係者評価」

【川田委員】

公開授業の参加率が向上したのはよいことであり、評価できる。

【伊藤委員】

(私も教育現場での経験があるので)公開授業を校内で実施するのは難しい側面がある。教員個々も自分の授業を担当しており、(同時間帯で実施される)他の教員の公開授業に参加するのは難しいことは承知している。なので参加率100%は絶対不可能な目標である。その中でも60%を超える参加率は非常に高いと思われる。相当困難な目標に挑戦しているのでA評価でもいいのではという意見はないか？

【高田委員】

盲学校はいつでも授業を参観してよいと聞いているので、保護者として参観したことはある。自分の子どもだけではなく、他の子どもさんたちの学びを見学することもできるので参考になっている。

【伊藤委員】

外部との連携、協働学習について、少し伺いたい。特に高知声と点字の図書館様との連携について、泉委員にお聞きしたい。

【泉委員】

令和8年に入り、2回ほど、盲学校の生徒さん向けに授業を行った。(バリアフリー図書のひとつである)音声図書を聴くための機器の扱い方や自分が読みたい本を選んでいただいて、それを録音図書として実際に聴いてもらった。私たちが思っている以上に生徒さんの反応が良く、耳を澄ましてじっと聞いている姿を見ると、とても嬉しかった。引き続き、(令和8年度も図書館の魅力を伝えつつ)自分で図書館に本を借りに来るといったことまでやっていただけると嬉しい。

【川田委員】

伊藤委員から60何パーセントの公開授業(参加率)もすごいという話を伺い、学校の取り組みについて、(児童生徒数が減少する厳しい中で)そういうことを加味していけば、まあA(評価)でもいいかと思う。先ほどは学校からの説明を聞いて、(当初目標を達成していないから)B(評価)と思ったが、もう後の二項目もA(評価)でよいと思った。

「伊藤委員」評価については、最後は確認ということで、A(評価)というご意見、B(評価)というご意見を得たということで、最終的に全体を見てということで決定したいと思う。続いて心豊かな人間性の育成という項目ですが、こちらも外部連携との交流学习とか、SDGs、食育、それから防災、防災について意見をお伺いしたい。防災については前回も話題になったと思う。

【上村委員】

地域との繋がりで近隣の城西中学校で行った防災フェアは、来年も行う予定なので、ぜひ、盲学校にも協力していただきたい。盲学校のブースで展示していた視覚障害者の理解啓発のチラシなども見ていただいて、地域の方にご理解していただけるいいきっかけと感じる。

【教頭】

(大変ありがたいことに)城西防災フェアや理解啓発活動、各種学校行事に保護者の方も積極的にご協力いただいている。

【伊藤委員】

盲学校の防災の取り組みについて NHK で放映されているのを拝見した。他にも盲学校と外部との連携に関する報道も拝見した。積極的な情報発信、地域への情報発信を行っている印象もあるが、さらに良い手立てはないか皆さんからのご意見を伺いたいとのことだが。今年度の報道(回数などは)はどのようになっているか。

【校長】

報道は、今年は、さすがに去年ほどなくて、やっぱりもう同じ行事が続いているのが原因ではないかと思う。学校の行事などについては教育委員会事務局の担当に取材依頼(投げ込み)はしているが、今年は減っている。

今年は報道関係じゃないですけども、高知大学附属小学校の方から依頼があり、視覚障害について、勉強したいということで、担当者が出向いて授業をした。また、栄養士が大学の方で講義をして、盲学校の魅力や盲学校の給食について外部講師として講義したりするなどあらゆる手立てや手段で(盲学校を)アピールをしている。残念ながら児童生徒数の繋がっていないが、一定の手ごたえを感じている。

さきほど、城西防災フェアのことも出ていたが、盲学校も福祉避難所に指定されているので、地域との連携は大切である。しかし、同時に課題意識ももっている。地域と学校がより密に関わっていくためには、従来のやり方だけでなく、どうやって根を拓げて切り込んでいくか悩んでいる。盲学校の近隣地区は結構広域になっているので、難しいこともあるが、本当に学校の近くからまずは連携していかないかかなというふうに思っている。かつて、地域の方の一部からは盲学校の児童生徒になかなか声はかけたいけど、どうやって声をかけたらいいか「わからない」という話も聞こえてきたことがある。全盲の子どもは白杖を使用しているなど見えにくさを周囲も気づいてもらいやすいが、弱視の子どもたちに対しては、気づかれにくいということでもある。

【原田委員】

学校行事などのお知らせは今後も積極的に声掛けして欲しい。回覧板などを使用することもできるので1か月前ぐらいに届けていただくと周知可能である。

【川田委員】

私の班では一週間程度あれば、回覧できるので、協力していきたい。ただ、高知市内でも町内会の機能は顕著に低下している。例えば100件単位で町内会が解散しており、不燃物の回収当番などが立ち行かずにもうお金出して外部に頼むいうところも起きている。ただ、全体が集合しやすい行事として、七河川の一斉清掃あたりは比較的参加しているので、理解啓発の

機会になるのではないか。

【上村委員】

盲学校は福祉避難所に指定されているが、小高坂更生センターは指定をまだ受けていない。近い将来、指定を検討しているところである。

【校長】

教頭時代に町内会の各種会合にも出席したが、盲学校近隣の町内組織は広域であることが、課題となっている。また、実際に大規模災害が起きるとまずは地域の避難所開設に地域住民は奔走するので、なかなか福祉避難所の運営までは手が回らないと思っている。高知市からは要配慮者の人数について、知らされているが、個別避難計画の中身などは知らされておらず、盲学校が福祉避難所に指定されていても実際にどのような支援が必要な方かまでは知らされていないので、人的体制ばかりでなく、生命を維持するために最低限必要な医療的ケア等の器具類なども充足できていないと思う。

【原田委員】

個別避難計画作成は義務となっているにも関わらず、個人情報保護が壁となって進んでいないのが実状である。

【校長】

盲学校の福祉避難所は、事前登録制などをうたって、常日頃から避難訓練に参加してもらうなどお互いの顔がみえるような形で進め、より安心安全な福祉避難所となるよう考えていきたい。

【伊藤委員】

(退職校長会の研修でも)年に1回集まって研修がある。今度のテーマが「避難所生活をどう生き抜くか」という内容であった。実際に被災地の支援にあたったDマツの方の話などを伺うとすさまじい状況だったと聞く。南海トラフ巨大地震の想定の中にも災害関連死の問題は大きく取り上げられているので、特に障害のある方とか支援の必要な方の避難については憂慮するところである。

【上村委員】

働き方改革は進んでいるように感じているが、実際には業務が終わらず持ち帰りの教職員はいるのではないか。

【校長】

実際には存在していると思う。本校は機械警備なので警備会社との契約上、時間は制約される。また働き方についても教職員個々の性格もあり、自分ですべてを把握しないと不安な方もおり、中々、他に仕事を振れないジレンマもあるようだ。

【伊藤委員】

不祥事防止について向けた取り組みということで、幸いにも盲学校には起こってないということだが、これはもう本当に気を引き締めてやっていただくしかないし、それからお話もありましたが、どんなことも一人で抱え込まないようにしなければならいと思う。

【伊藤委員】

それでは最終的な評価ですけれども、学校としてはオール B 評価という形だが、話の中で

は、地域との協働とかいろんな面でよくやってくれているので、A をつけたらどうかというお話もあったが如何か。

【川田委員】

児童生徒たちも文化発表会などで頑張っている姿が伝わってきたので、A(評価)でもよいと思う。また地域との連携や魅力発信もそれなりに努力されていると思う。

「伊藤委員」それでは皆さん。働き方改革、不祥事防止の項目は学校原案通りの B(評価)、それ以外の項目は A(評価)で如何か。

【全員】

異議なし。

(2) 令和8年度学校経営計画について

学校長よりグランドビジョン資料をもとに令和8年度の取組について説明

【校長】

令和6年から令和8年、来年度まで中期的なビジョンを立てているので、大きく変わったことはない。まもなく創立100年目になる。具体的に言うと令和10年度、式典がおそらく令和11年の2月になろうかと思う。そこまで前八木校長先生が掲げたタイトルにもとづき取り組んでいきたい。

具体的な取り組みとして、一つ目が主体的、対話的に深い学びということで、公開授業まで任意でやっていたが、次年度は各教員に1回は取り組んでもらいたいと考えている。今年度も1人が2回も3回も公開授業に取り組む教員もいた。教育長面談でも教科指導は重要性について話題になり、教職員の中には教科指導を通じて、自分を高めたいという意識もあるので、重点的に取り組みたい。具体的には、(私が教頭の時に)初任者研修などでは他の特別支援学校にも積極的に参観授業を推進してきたこともあり、その成果を踏まえ、高校の授業を参観するなど積極的に取り組んで連携を深めたい。

心豊かな人間性の育成は昨年と同様、挨拶や礼儀については、卒業後の就労に向けて非常に大事なポイントと考えるので取り組んでいきたい。昨年は小学部でも朝早くから取り組んでいた挨拶運動も復活させたい。

学校安全に関しては、災害だけでなく、交通安全活動にも積極的に取り組みたいと考えている。

文化・芸術・スポーツ分野では、コンクールとかスポーツ大会のチャレンジも推進していきたい。ここ3年間、全国大会に出場しメダルを獲得する成果もあるので、来年以降も継続してできればと思っている。

多様な実態の児童生徒、厳しい環境にある児童生徒も在籍しており、これからもスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーとの連携は一層、強化していきたい。

魅力発信については、特にホームページのリニューアルを図り、閲覧しやすいホームページに変えていきたい。

教職員の盗撮事件など不祥事が続き、なかなか子どもたちの写真を撮ったらいかんという縛りが出てきて、なかなかリアルタイムな情報を学校保護者連絡システムのタイムライン機能などを使って保護者に積極的に公開していた取り組みも難しい雰囲気になってきたが、せつ

かくで頑張っていることを、保護者の方、また他の地域の方に知っていただきたいということもあるのですが、これは教育委員会と協議しながらやっていきたいと考えている。

働き方改革については、いわゆる学部を超えた、協力体制は継続していきたい。特に空き時間の確保や教材づくりの時間確保などは全校を挙げて取り組んでいきたい。

不祥事防止については、校内研修会等の実施について今まで学校の管理職が講師になってやっていたことに加えて、外部講師招聘して実践する等ちょっと目先を変えるところもやっている。

引き続き、自分事としてしっかりと向き合うということがみんな共通で理解しているので、人間関係、職場の雰囲気づくりについてより一層改善を図っていきたい。

【伊藤委員】

令和8年度の学校経営計画について承認でよろしいか。

【全委員】

承認。

(3) その他

【教頭】

盲学校の専門性を維持、向上する取り組みとして、本校の石川教諭が「歩行訓練士」の資格を取得した。詳しくは高知県教育委員会のとさなまなチャンネルで公開しているので、ぜひ、お手元のQRコードから視聴していただきたい。高知県では久しぶりの資格取得者となり、活躍を期待している。

【伊藤委員】

高知県内で歩行訓練士の資格を有する教職員は何人か。

【校長】

全部で4名。そのうち2名が盲学校。日高特別支援学校の管理職 1名と教員が 1名である。

令和8年度

第1回学校運営協議会予定 令和8年7月15日(水) 予定

第2回学校運営協議会予定 令和9年2月24日(水) 予定